

改訂版

平成25年3月25日

平成25年度 6人制ルールの取り扱いについて

『平成25年度 6人制ルールの取り扱い』について、3月23日の審判規則委員会合同会議において、FIVB ルールが改正された点及び平成24年度国内競技会の反省点から、以下の点について取り扱いを統一することを確認しました。

1 オーバーハンドパスのハンドリング基準に関する事項

規則9.2 ヒットの特性

- 92.1 ボールは、身体のどの部分で触れてもよい。
- 92.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。
- 92.3 ボールは、接触が同時にであれば、身体のさまざまな部分に触れてもよい。

92.3.1 ブロックでは、1つの動作中であれば、1人または2人以上のブロッカーが連続して接触してもよい。(規則14.2)

92.3.2 チームの最初のヒットでは、(規則92.4を除き) 1つの動作中であれば、ボールは身体のさまざまな部分に連続して接触してもよい。(規則9.1, 14.4.1)

92.4 サービスのレシーブでは、指を使ったオーバーハンドの動作でダブルコントакトやキャッチをした場合は反則となる。

(注)

- 1 指を使ったオーバーハンドでの、サービスのレシーブのハンドリング基準は、チームの2回目、3回目のヒット時のオーバーハンドパスと同じ基準である。
- 2 オーバーハンドの動作によるサービスのレシーブで、指を使っていない場合は、ダブルコンタクトの反則にはならない。しかし、従来同様、キャッチの反則になる場合はある。

2 リベロに関する事項

規則19.3.2 リベロリプレイメント（入れ替え）

19.3.2.1 リベロリプレイメントは、通常の選手交代には数えない。

その回数に制限はない。しかし、(ラリーが完了せずに、ペナルティにより、ポジション4にローテーションしなければならなくなったり、アクティングリベロがプレーできなくなったりした場合を除き)リベロリプレイメントを2回行う場合は、新たなラリーが完了した後でなければ次のリプレイメントはできない。

19.3.2.2 通常のリプレイメントをする選手は、いずれのリベロとも入れ替わってコートに出入りすることができる。アクティングリベロが入れ替わることができるのは、もともと入れ替わっていた選手またはセカンドリベロのみである。

19.3.2.3 各セットの開始時には、リベロは副審によるスターティングラインアップの確認が終わり、スターティングプレーヤーとのリプレイメントを許されるまでコートに入ることができない。

19.3.2.4 その他のリプレイメントは、ボールがアウトオブプレーの状態で、サービスのホイッスルの前でのみ行うことができる。

19.3.2.5 サービスのホイッスルの後であっても、サービスヒットの前であれば、リプレイメントは拒否されない。しかし、これは許された手続きではなく、さらに再発した場合は、遅延行為に対する罰則が適用されることを、そのラリー終了後、ゲームキャプテンに伝える。

19.3.2.6 リプレイメントの遅れが再発した場合は、プレーを直ちに止め、遅延行為に対する罰則を適用する。次にサービスを打つチームは、遅延行為に対する罰則の段階により決定される。

19.3.2.7 リベロとその入れ替わる選手は、リベロリプレイメントゾーンを通じてのみコートに入りでできる。

19.3.2.8 リベロリプレイメントは、リベロコントロールシートまたは(もしも使用しているなら)電子記録用紙に記録される。

(注)

- 1 ラリーが、ノーカウントになったときは、リベロのリプレイメントはできない。
- 2 サービス許可のホイッスル前であれば、何度入れ替わっていても良い。(例えば、最初L1が入ったがL2の方が調子良かったので、L2に替わったなど)
- 3 サービス許可のホイッスル後、サービスが打たれる前にリプレイメントした場合は、ラリー終了後、ゲームキャプテンに注意が与えられる。繰り返した場合は、プレーを直ちに止めて遅延の罰則が科せられる。この時のリベロの交代は認められない。ただし、この時、リベロがボジション4に残らなければいけなかったり、アクティングリベロがプレーできなくなった場合は、ラリーが完了していなくてもリプレイメントが許される。

19.3.2.9 不法なリベロリプレイメントは、(主に)以下の事例を含む。

・リベロリプレイメントの間に完了したラリーがないとき。

・セカンドリベロや入れ替わった選手以外と入れ替わったとき。

不法なリベロリプレイメントは、不法な選手交代と同様とみなされる。

不法なリベロリプレイメントが次のラリーの開始前に発見された場合は、審判員により訂正され、チームには遅延行為に対する罰則が適用される。

不法なリベロリプレイメントがサービスヒットの後に発見された場合は、不法な選手交代と同じ処置がされる。

(注)

- 1 不法なリベロリプレイメントが行われた時、アシスタントスコアラーは、サービスの許可のホイッスル後からサービスのヒットの前にフサーを鳴らし、指摘しなければならない。そして、チームには選手の罰則が与えられ、元のポジションに戻し、リベロリプレイメントは認められない。しかし、リベロがポジション4に残らなければいけない場合は、リベロリプレイメントは認められる。
- 2 不法なリベロリプレイメントの指摘が、サービスのヒット後になってしまった場合は、不法な選手交代として処置をする。この場合も、元のポジションに戻すが、ラリーが完了しているため、その後のリプレイメントについては認められる。

規則19.4 新しいリベロの再指名 (RE-DESIGNATION OF A NEW LIBERO)

19.4.1 リベロが負傷や病気、退場、失格でプレーをすることがきくなつた場合：

監督または監督が不在の場合にはゲームキャプテンは、いかなる理由であってもリベロがプレーできなくなつたことを宣言することができる。

19.4.2 リベロが1人のチーム

19.4.2.1 規則19.4.1によりリベロが1人しかいなくなった場合や、1人しか登録されていない場合は、そのリベロがプレーできなくなつたと宣言されたときには、監督(監督不在の場合はゲームキャプテン)はその時点でコート上にいない他の選手(リベロと入れ替わった選手を除く)を、試合終了までリベロとして再指名することができる。

(注)

リベロ1人のチームで、リベロが失格や退場となつた場合でも、そのチームは新しいリベロを再指名することができる。

19.4.2.2 もしもコート上でアクティングリベロがプレーできなくなつた場合は、通常リプレイメントする選手に入れ替わるか、直ちに直接再指名したりベロと代わることができる。この場合、再指名の対象となった元のアクティングリベロは、その試合の残りはプレーすることはできない。

もしもプレーができなくなつたと宣言した時にリベロがコート上にいない場合でも、再指名をすることができる。プレーできないと宣言されたリベロは、その試合の残りはプレーすることはできない。

19.4.2.3 監督または監督不在の場合にはゲームキャプテンは、副審に再指名について申し出る。

19.4.2.4 再指名されたりベロがプレーできなくなつた場合には、さらにリベロを再指名することができる。

19.4.2.5 監督がチームキャプテンを新たにリベロとして再指名することを求めた場合は、この要求は認められるが、チームキャプテンはリーダーとしてのすべての権利を放棄しなければならない。

19.4.2.6 リベロの再指名があったときは、再指名された選手の番号を記録用紙の備考欄とリベロコントロールシート（または使用しているなら、電子記録用紙）に記録しなければならない。

(注)

1 リベロの再指名の方法は、次のとおりである。

①監督がブザーを押し、副審に、口頭で「リベロの再指名」を要求する（ハンドシグナルは示さない）。その時、リベロと再指名される選手は、リベロリプレイメントゾーンに、ナンバーパドルを使用する場合は、ナンバーパドルを持って準備をして立っていないければならない。（再指名された選手はビブスを着るか、アクティングリベロと同じユニフォームを着る。しかし番号は自身と同じものを付ける。ビブスは各チームで準備する。）

◆リベロが、コート上にいるときでも、再指名することができる。

◆交代が遅れたり、準備ができていない場合は、拒否され遅延の罰則が適用される。

②副審はハイツスルし、記録員にリベロの再指名の要求であることを口頭で伝える。この際ハンドシグナルは示さない。

③記録員は、再指名した選手が、リベロと交代した選手でないことをアシスタントスコアラーに確認し、片方の手を上げる。（リベロがコート上にいるときでもできる。）

④副審は、リベロの再指名を許可する。

⑤記録員は記録用紙の特記事項欄に、アシスタントスコアラーはリベロコントロールシートのコラムに、それぞれリベロの変更を記載する。

(記載例)

Aチームが第1セット13：14のときリベロの再指名の要求があつた場合

（リベロNo. 14、再指名の選手No. 9）

<記録用紙> リベロの再指名/A/1 (13：14) No. 14→No. 9

クリベロコントロールシート/リベロの再指名の記載欄に記載する。

⑥記録員は、アシスタントスコアラーの記載が完了していることを確認したら、両手を上げて副審に知らせる。副審は、主審に両手を上げて知らせる。

2 セット間にリベロの再指名をしたいとき、監督はリベロを再指名することを副審に伝えよ。副審は、スターティングメンバーの確認をした後、リベロの再指名の手続きを行う。

3 リベロとして再指名された選手は、試合を通じてリベロとして試合に出場する。プレーが続行できない（プレーの調子が悪い等）と宣言されたりベロは、再指名をした時点で、試合に戻ることはできない。

4 チームキャプテンがリベロとして再指名された場合は、以後は新たにチームキャプテンを指名する必要はない。試合中はゲームキャプテンがキャプテンの責務を担う。

5 試合終了後、リベロに再指名されたチームキャプテンが、記録用紙にサインをする。

19.4.3 リベロが2人のチーム

19.4.3.1 2人のリベロが記録用紙に記入されているチームは、そのうちの1人がプレーできなくなつても、リベロ1人で試合をすることができる。再指名は認められないが、もう1人のリベロも試合でプレーの続行ができなくなつた場合は、この限りではない。

19.5 リベロの退場または失格(EXPULSION OR DISQUALIFICATION)

19.5.1 リベロが退場または失格となった場合は、直ちにセカンドリベロに入れ替わることができる。
もしもチームに1人のリベロしかいない場合は、再指名することができる。

(注) 改訂版

【リベロが2人のチームの再指名】

リベロが2人のチームの場合、2人のリベロともがプレーできなくなつたことを宣言した時点で、新しいリベロを再指名することができる。再指名した場合は、登録されていたリベロは、試合を通してリベロの権利を失う。

1 1人のリベロが退場になつた場合、チームは1人のリベロで試合を続行できる。しかしそのリベロもプレーが続行できないと宣言された場合、新しいリベロを再指名できる。その時は、そのリベロは、試合を通してリベロの権利を失う。ただし、退場していたリベロは、次のセットからリベロとしてコートに戻ることができ、チームは次のセットから、2人のリベロで試合を行うことができる。

2 1人のリベロが退場になつた場合、チームは1人のリベロで試合を続行できる。しかし、そのリベロも退場になつた場合、退場した2人のうち1人のリベロに対して、新しいリベロを再指名することができる。その時は、そのリベロは、試合を通してリベロの権利を失う。ただし、もう1人の退場となつたりベロは、次のセットからリベロとしてコートに戻ることができ、チームは2人のリベロで試合を行うことができる。

3 1人のリベロが失格になつた場合、チームは1人のリベロで試合を続行できる。しかし、そのリベロもプレーが続行できないと宣言された場合、新しいリベロを再指名できる。その時は、2人のリベロは、試合を通してリベロの権利を失い、チームは再指名した1人のリベロで試合を行う。

3 不法な行為に関する事項

規則2 1. 軽度の不法な行為 (MINOR MISCONDUCT)

軽度の不法な行為は、罰則の対象にはならない。主審には、チームが罰則レベルに達しないように防ぐ義務がある。

これは2段階で処置される。

ステージ1：ゲームキヤブテンを通じて口頭での警告をする。

ステージ2：該当する選手にイエローカードを使用して警告をする。この警告はそれ自体が制裁ではないが、その試合においてそのチームメンバーが（さらにチームが）次からは罰則になることを示している。これは記録用紙に記録されるが、直ちに罰則を受けることはない。

(注)

- 1 チームの1回目の軽度の不法な行為があった場合は、ステージ1として処置する。ステージ1の警告は、チームに対して行い、ゲームキャプテンを呼んで口頭で警告を行う。この警告は1度限りである。記録用紙には記載しない。
- 2 チームの2度目の軽度の不法な行為については、イエローカードを示し、記録用紙に記載される。主審は、軽度の不法な行為を行った選手を呼び、イエローカードを示し警告する。このイエローカードはチームに対して試合を通して1回だけである。したがって、その後同じチームのどの選手でも、再度軽度の不法な行為を行った場合は、レッドカードを示し反則とする。

(例)

ステージ1 ⇒ ステージ2

選手 No. 5 ⇒ No. 6 ⇒ No. 7 ⇒ No. 8
処置 口頭でチームに警告 仁Rカード レッドカード レッドカード

- 3 チームに先に反則・退場・失格の罰則を適用した後に、同じチームが軽度な不法な行為を行った場合は、口頭での警告は行わず、上記のステージ2から始まり処置を行う。

(例)

不作法な行為 ⇒ 軽度な不法な行為1回目 ⇒ 軽度な不法な行為2回目 ⇒ 軽度な不法な行為3回目

選手 No. 5 ⇒ No. 6 ⇒ No. 7 ⇒ No. 8
処置 レッドカード レッドカード イエローカード レッドカード レッドカード

4 試合中断に関する事項

規則17.1 負傷／病気 (INJURY/ILLNESS)

- 17.1.1 ボールがインプレー中で、もしも重大な事故が起きた場合には、審判員は直ちに試合を止め、医療担当者がコートに入ることを許可しなければならない。
ラリーはその後、やり直しとなる。
- 17.1.2 負傷や病気の選手に対し、正規にも例外的にも選手交代ができるない場合は、その選手に3分間の回復のための時間が与えられるが、その試合中は同じ選手に対し繰り返しては与えられない。もしも選手が回復しない場合は、チームは不完全を宣告される。(規則643, 73.1)

(注)

- ラリー中に選手が負傷し、ラリーが中断され、ノーカウントとなつた場合、その選手の選手交代は認められるが、タイムアウトは認められない。

5 スクリーンに関する事項

規則12.5 スクリーン(SCREENING)

- 12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成し、サーバーおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。
- 12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を振り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サーバーおよびサービスボールのコースを隠すことによってスクリーンが形成される。(第6図)

(注)

スクリーンの反則が成立するのは、サービングチームの選手の妨害によって、サービスをレシーブする選手が、サーバーおよびサービスボールの軌道を隠されて、見えなくなる時である。

6 副審の責務に関する事項

規則24.3 責務 (RESPONSIBILITIES)

- 24.3.1 それぞれのセット開始時や最終セットのコートチェンジ時に、必要に応じてコート上の選手の位置がラインアップシートどおりであるかをチェックする。
- 24.3.2 試合中、副審は次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。
- 24.3.2.1 相手コートおよびネット下方の空間へ侵入したとき。(規則11.2)
- 24.3.2.2 レシービングチームのポジションの反則のとき。(規則7.5)
- 24.3.2.3 主としてプロッカー側のタッチネットの反則と、選手が副審側のアンテナに触れたとき。(規則11.3.1)
- 24.3.2.4 バックプレーヤーがロックの完了をしたときや、リベロがロックの試みをしたとき。または、バックプレーヤーやリベロのアタックヒットの反則のとき。(規則13.3.3, 14.6.2, 14.6.6)
- 24.3.2.5 ボールが外部の物体に触れたとき。(規則8.4.2, 8.4.3)
- 24.3.2.6 ボールがフロアに触れて、主審がその接触を確認できないとき。(規則8.3)
- 24.3.2.7 相手コートに向かうボールの全体またはその一部が副審側の許容空間外側を通過したとき、あるいは副審側のアンテナにボールが触れたとき。(規則8.4.3, 8.4.4)
- 24.3.3 試合終了後、記録用紙をチェックし、サインする。

(注)

- 1 パックプレーヤーの判定を確実にできるような見方、位置取りをする。
- 2 副審は、ネット上部の白帯の部分でも、プロッカーが触れた場合は、タッチネットの反則のハイツルをする。

7 選手交代に関する事項

規則15.10 選手交代の手続き (SUBSTITUTION PROCEDURE)

15.10.1 選手交代は、選手交代ゾーン内で行わなければならない。(規則 1.4.3)
15.10.2 選手交代は、記録用紙への記録と、選手のコートの出入りを許可するために必要な時間より長くかかってはならない。

15.10.3a 選手交代の要求とは、中断の間に、プレーする準備のできた交代選手が選手交代ゾーンに入ることをいう。負傷による場合やセット開始前の選手交代を除いて、監督は選手交代のハンドシグナルを示す必要はない。

15.10.3b もしも選手が準備できていなければ、選手交代は認められず、チームは遅延行為により罰せられる。(規則 16.2)

15.10.3c 選手交代の要求は、記録員のフサ一、または副審のホイッスルにより通知される。副審が選手交代を許可する。

FIVB 世界・公式大会では、選手交代を容易にするため、ナンバー/パドルを使用する。

15.10.4 チームが 2 組以上の選手交代を同時にしようとするときは、同一の要求とみなせるように、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。この場合は、交代は 1 組ずつ連続して行われなければならない。もしも、そのうち 1 組が不法である場合には、正規の選手交代は許可されるが、不法な選手交代は拒否され、遅延行為に対する罰則が適用される。

(注)

- ①交代選手が準備できていない場合は、その要求は拒否され、遅延の罰則が適用される。
- ②複数の選手交代を要求したとき、1組の交代選手が遅れた場合、その交代は拒否される。
- ③複数の選手交代を要求したとき、組合せの中で不法な選手交代である場合と選手が準備できていない場合は、その交代は拒否され、遅延の罰則が適用される。ただし、正しい交代や遅れない交代は認められる。
- ④複数の選手交代については、1組目の記録が完了するまでは 2 組目はサイドライン上には立たせない。
- ⑤交代選手がサービスのホイッスル後にサブステイチューションゾーンに入った場合は、拒否をして不当な要求とする。
交代選手が、サービスのホイッスル後にサブステイチューションゾーンに入り、このとき副審がホイッスルしたり、記録員がフサ一を鳴らした場合は、遅延の罰則が適用される。
- ⑥複数の選手交代のとき、パドルをベンチに取りにいどり再度選手交代を要求してきた場合は拒否され、遅延の罰則が適用される。

*ナンバーパドルおよびフサ一を使用しないときの競技者交代の手順

- ①交代選手が、サブステイチューションゾーンに入ったたら、副審がホイッスルし、ハンドシグナルを示す。主審もハンドシグナルを示す。
- ②副審は、ポールのそばで選手交代をコントロールする。
- ③副審は、交代選手の方を向き、選手をサイドライン上に止ませる。
- ④副審は、コート内の交代する選手に手を挙げさせる。
- ⑤記録員は、交代できることを確認できれば、軽く手を挙げて合図を送る。交代できない場合は記録員が手を横に振る。
- ⑥副審は、記録員を確認し、手で合図をして選手を交代させる。
- ⑦記録員は記録用紙を記入して、完了したら両手を挙げる。
- ⑧複数の選手交代の場合は、1組ずつ③からの手順を同様に行う。

規則7.3 スターティングラインアップ(TEAM STARTING LINE-UP)

7.3.5 コート上の選手のポジションが、ラインアップシートと違う場合には、次のように対処する：

7.3.5.1 セットの開始前に違いを発見した場合は、選手のポジションはラインアップシートどおりに改めなければならない。この場合には制裁はない。

7.3.5.2 セット開始前、そのセットのラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、選手はラインアップシートどおりに変更されなければならない。この場合には制裁はない。

7.3.5.3 しかし、監督がそのようなラインアップシートに記入されていない選手をそのままコート上でプレーさせたい場合には、監督は正規の選手交代を、該当するハンドシグナルを用いて要求する必要があり、記録用紙に選手交代が記録される。

もしもラインアップシートと選手のポジションの違いが、もっと遅い時点で発見された場合は、間違いのあったチームは、正しいポジションに戻さなければならぬ。相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いをした時点から発見されるまでに、間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。

7.3.5.4 記録用紙の選手のリストに登録されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いのあったチームは、登録されていない選手がコートに入った時点から得たすべての得点とセット(必要であれば0-25として)を失い、修正したラインアップシートを提出し、登録されていない選手がいたポジションに、登録されている選手を新たにコート上に送らなければならない。

(注)

セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合

- 1 副審はラインアップシートを監督に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、ラインアップシートどおりに変更するよう指示する。
- 2 監督がラインアップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は、両チームのラインアップを確認後、副審は正規の選手交代を認めなければならない。この場合、監督は選手交代のハンドシグナルを示し、正規の選手交代を要求する。
- 3 この際、ラインアップシートどおりに選手をコートに戻す。
- 4 副審は、ハンドシグナルを確認後、ホイッスルをし、要求を受け付け、正規の選手交代を行い、記録員に選手交代を記録させる。

8 試合の遅延に関する事項

規則 16.2 遅延行為に対する罰則(DELAY SANCTIONS)

16.2.1 “ディレイワーニング”と“ディレイペナルティ”はチームへの罰則である。

16.2.1.1 遅延行為に対する罰則は、試合終了まで有効である。

16.2.1.2 すべての遅延行為に対する罰則は、記録用紙に記入される。

16.2.2 チームメンバーによる試合での最初の遅延行為に対しては、“ディレイワーニング”的罰則が適用される。

16.2.3 同じチームによる2回目以降の遅延行為は、どのチームメンバーが引き起こしても、どのようないかなる種類のものであっても、ペナルティとなり “ディレイペナルティ”的罰則が適用される。

そのチームは1点を失い、相手チームのサービスとなる。(規則 16.1.3)

16.2.4 セット開始前、またはセット間に適用された遅延行為に対する罰則は、直後のセットに適用する。

(注)

- 1 ディレイワーニングの罰則は、イエローカードを他方の手首に当たハンドシグナルで示す。
- 2 ディレイペナルティの罰則は、レッドカードを他方の手首に当たハンドシグナルで示す。

9 公式記録記入法

IV 試合後

4.5 記録員は“S”(選手交代)欄のそれぞれのセットに対応する枠内に、それぞれのチームが行つた選手交代のすべての回数を記入する(いかなる例外的な選手交代も含む)。そして、“合計”枠内にすべてのセット中に、それぞれのチームが行った選手交代の総数を記入する。もし、チームが選手交代を行わなかった場合は、その欄に○を記入する。

【平成25年度 指導部の目標と6人制の重点指導項目】

JVA国内事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目標

- (1) 公正・公平な立場で、ルールを正確に適用し、ラリーの継続を大切にして、観衆・マスメディアを魅了するようなダイナミックなプレーを引き出す審判実践を行う。
- (2) 審判員は、役員、競技参加者に対する言動に十分注意し、相互の信頼関係を築く。
- (3) 審判技術の向上を目指すために日々の研鑽に努める。
- (4) 技術統計については、より正確な判定とデータ作成を行うことができるようなスタッフのスキルアップを図る。

2 重点指導項目

【主審】

I 権限と責務

規則23.2権限、および規則23.3責務を十分理解し、試合全体をコントロールする。特に下記の項目については、毅然とした態度で臨む。

- (1) チームメンバーによる不法な行為（相手に向かって“ガツツポーズ”などで挑発・威嚇する行為など）に対して、規則21「不法な行為とその罰則」に則って罰則を適用する。また、審判団（副審・ラインジャッジ等）に、チームから判定に対するクレームがあった場合は、その内容を確認し、適切に対応する。
- (2) 判定に対する質問は、ゲームキャプテンのみであるので、監督や他のプレーヤーからの質問は受けつけない。

II 判定について

(1) ハンドリング基準の確立

- ① 指を用いたオーバーハンドのサーブレシーブ
- ② 指を用いた2回目、3回目オーバーハンド

(2) ネット際の判定

- ① タッチネット
 - 「選手が相手のプレーを妨害する行為」を理解して判定をする。
 - ・ボールをプレーする動作中、ネット上端の白帯とアンテナの先端80cmまでの部分に触れたとき
 - ・ボールをプレーしているときにネットの支持を得たとき
 - ・アドバンテージを得ようとしたとき
 - ・正当なプレーの試みに対して妨害するような動作をしたとき

※ 主審がタイムリーに判定できるように視点を動かさないようにする。また、副審は、視点をネット際に残して判定する。（早くボールを追い過ぎない）

※ プロッカーやアンテナに触れたときの判定が、逆になってしまることがある。ネットやアンテナにボールや選手が近づいてきたときは、起こりうる反則を整理し、準備をして判定する。

② ブロックの判定

ブロック時のキャッチで明らかものは判定をする。

- ③ オーバーネットの判定

ネット上に視点を置き、ボールと手の接点を見て判定する。

・プロッカーのオーバーネットは、セッターがトスを上げる前、上げた後、または同時にプロ

- ・ プロッカーが相手のアタックヒットの前、またはそれと同時に、相手空間内にあるボールに触れたとき
- ・ 相手から返球されてくるボールを、明らかにオーバーネットして、アタックヒットを完了したとき
- ・ 自チームからのトスを明らかにオーバーネットして相手チームへ返球するとき
- ・ 相手コートから返球される1回目、2回目のボールで、明らかにネットを越えてこないボールを、プレーヤーの有無にかかわらず、オーバーネットしてプロック行為（3回目のボールはその限りではない）をしたとき

（3）バックプレーヤーの反則に関する判定

- ① サービスのホイップル前に、ポジションの確認をして、反則が起きた瞬間にホイップルをする。セッターとバックアタックするプレーヤーの位置を確認しておく。特にセッターがフォワードのときは、注意して確認する。
- ② 昨今、バックアタックの攻撃が多様化され速くなっているので、判定の方法を研究する。セッターがバックの場合、フロントゾーンで、ネットより完全に高い位置でトスしたボールが、直接相手コートにかかるか、または相手方ブロックに当たったときは反則となる。

【副】審】

I 権限と責務

規則24. 2 権限および規則24. 3 責務を十分理解し、主審を補佐し、自身の責務を遂行する。

- (1) ベンチにいるチームメンバーの不法な行為に対してもコントロールし、主審に報告する。
- (2) 記録員の任務をコントロールする。
- (3) 特に、サービス順の間違い、不当な要求、遅延や不法な行為の記録が、完全に記入されないうちに主審がサービスのホイップルをした場合には、副審はホイップルをして再開を止める。
- (4) プロトコール中に、コートのメンバーをコンボジョンシートで確認をする。

II 判定について

（1）タッチネットの判定

- ① 綱目の部分と下部の白帯の部分で、反則になる場合、また、インタフェアになる場合は、ホイップルをする。
- ② ブロック側のタッチネットについては、副審もホイップルする。

（2）アンテナ付近の判定

ボールがアンテナに触れたのか、選手がアンテナに触れたのか、どちらのチームが反則になつたのか正確に判定ができるようにする。

※ ボールの位置によって、アンテナのタッチネットの反則が起きることをあらかじめ予測をして位置取りを工夫する必要がある。

（3）許容空間外側のボール通過の判定

合の判定では、位置取りを速くし正確に判定できるようにする。

（4）バックプレーヤー及びリベロの判定

主審を補佐してタイムリーにホイップルできるように、ラリー中、バックプレーヤーやリベロの動きを視野に入れ判定できる位置取りを速くする。昨今、バックアタックの攻撃が多様化され速くなっているので、判定の方法を研究する。

※ ラリーが終了した後、ラリーに負けたチームのコートサイドへ移動して、公式ハンドシグナルを追従する。移動しながら公式ハンドシグナルを示さない。

・ ローテーションを1周する間に攻撃パターンを頭に入れ（セッターがフォワードのときの攻撃パターン）、プロッカーとアタックラインが視野に入る位置取りができるよう研究する。

・ バックアタックがあるチームの場合は、あまり前後の動きを大きくしないように工夫する必要がある。

III 試合中断の手続きについて

- (1) 選手交代
サブスティューションの手順及び取扱いを十分理解し、スマーズに行えるようにする。
※ 選手交代を要求した時に、リベロとりプレイスメントした選手(被交代選手)が、ベンチやウォームアップエリア等にいる場合は、遅延の罰則を適用する。
- (2) タイムアウト、テクニカルタイムアウト
- ① タイムアウトとテクニカルタイムアウトの要求後、ワイピングがある場合、5mのフリーゾーンがあるときは、サイドラインから3mはベンチ近くまで下がるようコントロールする(モッパーとクロスしない位置)。5mのフリーゾーンが無い場合(ワイピングが無い場合も含む)は、ベンチ近くにいるようにコントロールする。
- ② タイムアウトヒテクニカルタイムアウト中とその後：
- ・中断の許可後、ベンチに下がるときにベンチ近く(上記①参照)まで下がるようにコントロールし、モッパーがフロントゾーンを折り返すまで確認し、主審とアイコンタクトを取る。
 - ・記録が正確に記載されているか、また、中断の要求時のリベロの位置を確認する。
 - ・支柱を背にして両ベンチが見えるように立ち、中断終了前にコートに入らないようにコントロールする。(ユニフォームが出ている選手がいれば、入れるように注意する等)
 - ・タイムアウト後、コートに入る事が遅くなるような場合、ホイップルヒグナルで促し、繰り返す場合は何回もホイップルして促さずに、遅延の罰則を適用するよう進言する。
 - ③ ゲームの流れを読み、チームの要求に速やかに対応する。
- ④ ワンラリー毎にベンチコントロールを行い、ブザーがあるときは、ブザーに頼り過ぎないようする。
- (3) 最終セットのチェンジコート後、ラインアップシートで両チームのポジションを確認し、チエンジコート前の状態になっていることを、記録員と連携して確認する。タイムアウト、選手交代およびリベロのリプレイスメントは、チェンジコート後すべてを確認した後、許可する。

【記録員】

規則25: 2 責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。

- (1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようとする。(JAVISがある場合は、その情報も参考にする)
- (2) プロトコール中に、コート上のチームメンバーを記録用紙で確認をする。
- (3) ブザーがある場合、セット間終了合図は、ブザーで合図する。
- (4) サブスティューションは、タイミング良くブザーを鳴らし、落ち着いて記録する。
- (5) ① チームが複数の選手交代の要求をした場合は、最初に1度だけブザーを鳴らす。
② 同時に両チームから選手交代の要求があつた場合は、片方のチームの選手交代を完了させた後、再度ブザーを鳴らしてからもう一方のチームの選手交代を行う。
- (6) 最終結果(RESULTS)の集計を素早く行う。(例：セット毎にメモ用紙に集計していく)
記載ミスをした場合は、二重線で消す。主審と副審が確認したときに誤りがあったときは、記録員が修正する。

【アシスタントスコアラー】

規則26.2の責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。

記録員と声を掛け合って、交代選手の番号や得点を確認し合う。

- (1) リベロのリプレイスマントを正確に記録し、反則があった場合、ブザーを鳴らす。
- (2) タイムアウト、テクニカルタイムアウト中は、リベロの位置を副審に通告する。リベロ2人を持つチームの場合、リベロがコートにいるとき、番号も副審に通告する。
- (3) スコアーボードの得点が正しいか確認する。
- (4) テクニカルタイムアウトの開始と終了を通告する。
※ 1分をオーバーしないようにする。
- (5) 予備の公式記録用紙を準備し、必要があれば記録員に渡す。

【ラインジャッジ】

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。ボールコンタクトは、確実に見えた場合に限りフラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関する判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し試合に臨む。
- (3) 選手がアンテナに触れた場合、フラッグを振りその選手を指す。

平成25年度 JVA国内事業本部 審判規則委員会 運営基本方針 (案)

平成25年度審判規則委員会の運営基本方針を以下の6項目とする。

- 1 ビーチ審判員を含め、公認審判員の審判技術及び試合運営能力の向上を図る。
- 2 次世代を担う審判員の発掘・育成を図る。
- 3 男女共同参画をさらに推進し、女性審判員の活動を支援すると共に、審判技術の向上を図る。
- 4 チームと連携し、選手・指導者のルール理解を促進する。
- 5 国内トップ競技会及び国際競技会の成功を期すための事前研修会を開催し、スコアラー・アシスタントスコアラー・ラインジャッジ・コートオフィシャルを含めた審判員の質的向上を図る。
- 6 科学研究委員会情報処理部と連携し技術統計判定員のスキルアップを図り、客観的な判定にもとづく正確なデータの作成をめざす。

指導部：審判技術レベルに応じた適切な講習会・研修会を開催する。

- (1) 公認審判員のプラッシャアップを含めたスキルアップ事業を推進する。
- (2) 若い年代の審判員を発掘し育成する。

規則部：各年代層・各種別に応じたルールの研究を進め、分り易いルールブックの作成をめざす。

登録部：JVAメンバー制度(MRS)に従って、公認審判員のMRS登録の増加を図るとともに、公認審判員の現状把握を行う。

以上

